

「一元化」条例案可決

「市民の苦渋の決断踏みにじる」

大阪市の都市計画などに関する主要な権限を大阪府に委託する「広域行政一元化」条例案が、大阪府議会が3月24日、同市議会が26日に可決、成立したことを受け、大阪府保険医協会・高本英司理事長と大阪府歯科保険医協会・小澤力理事長は26日、「広域行政一元化」条例案の可決・成立に抗議する」との談話を共同発表した。

医科・歯科共同談話



医科協会理事長 高本英司



歯科協会理事長 小澤力

4月から個別指導再開

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、実施を延期していた個別指導（新規個別指導含む）が4月から再開される。新規個別指導は2019年末開業から順次実施される。

協会は個別相談に応じており、「指導通知が届いたら協会へ一報を」と呼びかけている。ご相談は、社保研究部（TEL 06-6568-7467）まで。



大阪府歯科保険医協会 会武
 発行人 和田 大
 大阪府浪速区幸町1-2-33
 電話(06)6568-7731(代表)
 http://osk-net.org/
 ●定価・年間10,000円 月1,000円
 ●1977年5月23日第三種郵便物認可

談話は、条例が、大阪市の成長戦略や政令指定都市がもつ都市計画に関する主要な権限を府に委託するため、「事実上の『大阪府解体』」につながりかねないとの条例の危険性を指摘。市の権限を弱める条例案の可決は、2度にわたる住民投票で示された民意を無視し、「大阪市民の苦渋の決断を踏みにじる行為である」として、「条例は到底認められない」と訴える。

「副都府推進本部会議の実態がカギ」などの大型開発に吸い上げられることがないよう、多くの市民とともに粘り強く「新政治と闘う」と決意を述べた。

21年コロナ会員アンケート①

100万円では足りない

不足している衛生用品について尋ねたところ（複数回答）、「グローブ」（27・5%）が最も多く、「医療用マスク」（9・5%）や「ガウン」（6・7%）、と続く。

2020年1年間の衛生用品の費用が2019年比でどのくらい増加したかを尋ねると、「20〜30万円」（25・7%）が最も多く、増加額40万円以内が5割を占めた。一方で、「100万円」（12・5%）、「100

施行ありきの拙速な議論は「民主主義、議事を軽視するもの」として強く抗議した。

さらに、新型コロナウイルスの感染拡大により、感染者数、死亡者数が全国最多水準にある大阪にあっては、府民のいのちと健康を守るために「新型コロナウイルス対策に専念すべき」であると訴える。

医科・歯科両協会は、「副都府推進本部会議の実態がカギ」などの大型開発に吸い上げられることがないよう、多くの市民とともに粘り強く「新政治と闘う」と決意を述べた。

万円以上」（12・5%）が一定数存在するなど、ばらつきも見られる。

衛生用品の品薄状況は一定解消されているが、価格高騰が経営を圧迫しているといえる。

意見では、「衛生用品（グローブ・ガゼ等）の価格高騰や、水道光熱費などの増加で明らかに収益が減っている。言っても叶わないが、点数を上げて欲しい」や、「更なる助成金を非課税で欲しい」があった。

経営維持のために取り組んで

グローブ不足3割 経費増で収益悪化

「グローブ不足3割 経費増で収益悪化」

意見には「グローブの値段だけでも1年で10倍に（2000円→20000円）になっていて、補助金100万では到底足りない。経費がどんどん増えているのはおかしいと思う」、「歯科衛生士の給料や時給がかなり高騰しているように思われます。今後、これらが経営を圧迫して

「グローブ不足3割 経費増で収益悪化」

「グローブ不足3割 経費増で収益悪化」

「グローブ不足3割 経費増で収益悪化」

3次補正・追加分25万円 実績報告の締め切りに猶予

厚生労働省が実施する、感染防止等に関する補助金・追加分25万円の実績報告の締め切りは4月10日だが、実績報告に必要な「交付決定通

協会直通番号のご案内

保険請求のご相談や年金・休業保障制度のお問い合わせは直通番号をご利用ください。

社保研究部 06-6568-7467
 共済部 06-6568-7438

第8回日常診療経験交流会

そのとき医療者は～感染症と災害にどう向き合うか～

7/11日 会場 ドーンセンター (大阪市中央区)



平尾理事が呼び掛け

日常診療経験交流会の開催は4年ぶりとなり、今年も医療者共催で行われます。演題のテーマは「医療者連携に限らず、日常診療での悩みや経営上の工夫など何でも結構です。幅広い演題を募集しています。」

「災害をテーマに2つの記念講演を予定している」とは、日ごろの経験、エピソードに基づく日常診療に光をあて、参加者が日々の医療実践を共有し、自由な意見交換を行うことです。

「災害をテーマに2つの記念講演を予定している」とは、日ごろの経験、エピソードに基づく日常診療に光をあて、参加者が日々の医療実践を共有し、自由な意見交換を行うことです。

「災害をテーマに2つの記念講演を予定している」とは、日ごろの経験、エピソードに基づく日常診療に光をあて、参加者が日々の医療実践を共有し、自由な意見交換を行うことです。

協会は7月11日、第8回日常診療経験交流会を、医療者として感染症と災害にどう向き合うかをテーマに、医科協会と共催する。会場はドーンセンター（大阪市中央区）。日常診療交流会実行委員の会副実行委員長平尾清司理事が、演題の応募を呼び掛けている。

第8回日常診療経験交流会

開会あいさつ 9:30
 分科会 9:40～12:00
 記念講演会 13:20～17:00

- ▶「感染症とこれから期待される未来社会」
山極寿一氏（総合地球環境学研究所所長）
- ▶「大阪の災害を考える～医療機関はどう備えるか」
河田恵昭氏（関西大学社会安全学部特別任命教授）

分科会 演題募集 応募メ切5/10

募集テーマ
 歯科臨床や医院経営における日常診療の工夫、医科歯科連携等

発表時間
 発表時間15分+質疑応答5分

申込方法
 協会事務局（06-6568-7731）まで

全国を巡る聖火リレーが始まり、いよいよオリンピックに向けて動き出した。日本中の多くの人はずいぶん早く、オリンピックの観戦を楽しみにしているが、本当に開催可能なのか。コロナ感染者が日増しに増える中、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ対策は万全なのだろうか。観戦者なしの開催にするというが、それについても対策はある。コロナに打ち勝った証を世界に発信すると言っているが、見逃せそうにない。

世界の多くの人はずいぶん早く、オリンピックの観戦を楽しみにしているが、本当に開催可能なのか。コロナ感染者が日増しに増える中、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ対策は万全なのだろうか。観戦者なしの開催にするというが、それについても対策はある。コロナに打ち勝った証を世界に発信すると言っているが、見逃せそうにない。